



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	キャンパス内勧誘というカルト問題 : 学生・大学の対処法
Author(s)	櫻井, 義秀; Sakurai, Yoshihide
Description	千葉大学公開講演会、2006年9月26日 (NHK千葉ニュース放送・ローカル紙掲載)
Issue Date	2006
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/17105
Type	lecture
File Information	chiba.pdf



キャンパス内勧誘というカルト問題 -学生・大学の対処法

北海道大学
櫻井義秀

摂理報道からカルト対策へ

- 朝日新聞の報道
- 中央公論2006/10「摂理はキャンパスにいる」
- 学生に届いているか?
- 大学の取り組み
- 放置せず・学生を守る
- 学生・親の関心
- 構成
- 1 カルト問題とは何か?
- 2 キャンパス内勧誘方法の諸問題
- 3 大学が取り得る対策

1 カルトとは何か?

- カルト(cult)元来「礼拝・祭祀」を意味した
- 1 新宗教
- 2 異端宗教、
- 3 社会問題化する宗教
- なぜ、人はだまされ続けるのか? カルトの信者になるとはどういうことか? (社会学)

「Boundaries(境界)」の支配

- 境界: 自己と他者の境界、責任と義務の範囲を理解することで共依存/従属/支配から脱出。
- ヘンリー・クラウド/ジョン・タウンゼント『境界線』地引網社,2004。
- カルトの問題とは、この境界を意図的に破壊し、自他の区分をなくし、特定個人や集団にメンバーを従属させていること。

身体的境界の侵犯

- 身体的境界は尊重されるべき
- しかし、教祖と信者の身体的距離に自覚的ではない教団: 男性教祖・聖職者と女性・子供の信者との間で、性的虐待が発生
- 摂理 ブランチ・ダビディアン
- 聖神中央教会 主管牧師と信者・子供
- モルモン分派 複婚主義者

精神的境界の侵犯

- 精神的境界を尊重する→自分と他人の人格の違い、自立性を認めること。
- カルト: 信者の精神的自立を認めない。教祖のコピーになることを要求。
- オウム真理教 麻原DNAドリンク・脳波ヘッドギア
- 多くのカルト 自意識・自尊感情を捨てさせる

社会的境界の侵犯

- 社会的境界: 自分の所属組織と外部社会との違いを認め、他の集団を尊重する。
- カルトは自己の組織を絶対化し、外部社会に存在意義を認めない。
- オウム サリン事件 ポアの論理
- 統一教会 霊感商法 サタンの金を神の側に

境界を喪失した人々

- 自ら自立性を信仰や情熱により棄てていく。
 - 1.主観的: 幸福感(自立のリスクと責任なし)
 - 2.客観的: 従属(指導者・組織のコマになる)
- いったん、このメカニズムにはいると、
 - 1.不都合な出来事の合理化(UFOカルト)
 - 2. 共同体に埋没(外部は不条理な世界に見える)
- カルトは長期的に存続、しかし、衰退する。

まだ終わらないオウム真理教

- 1 北海道大学の学生とオウム(アーレフ)
- 両親の苦悩は続く
- 2 オウム裁判の継続
 - 教祖・幹部の裁判
 - 債務総額 38億(40%弱支払い済み)
- 3 現在 1,200名程度の信者が活動

2 キャンパス内勧誘方法の諸問題

学生生活実態調査

勧誘時期: 合格者発表→新入生が落ち着くまで
勧誘場所: 構内、生協食堂、下宿訪問、イベント
勧誘団体: ダミー・サークル: 文化系・運動系(摂理)

勧誘の諸段階(承諾誘導の技術)

- 1 返報性: まめな勧誘、飯、手紙等々
- 2 コミットメントと一貫性: 継続に意味
- 3 社会的証明: ○○大生も
- 4 好意: 勧誘者を信用→彼の言うことなら
- 5 権威: 教典・偉人・○○博士推薦
- 6 稀少性: チャンスは今、二度目はない
- →実践の継続による信念の強化: 徐々に境界が破壊され、自己と指導者・組織の一体化が進行する

キャンパス内勧誘の何が問題なのか

- カルト(宗教)の勧誘だから → ×
 - 信教の自由・結社の自由・意見表明の自由
- コミュニケーションのルールを守らない → ○
 - 情報の開示(誰が、何の目的で、何を勧めているのか) ダミー・サークルはダメ
 - 情報提供の方法(誠実に疑問に答える) 脅す・すぐむ、泣き落とし 心理的負債で説得はダメ
- サークル活動を継続: 学業に支障 → ○
 - 勧誘・献金ノルマ 学生の本務は何か?

3 大学が取り得るカルト対策

- 1 カルト予防オリエンテーションの早期実施
 - キャンパスには様々な意図を持った人達がいる
 - サークル・部活動は大いに結構 しかし、注意
 - 困ったときの相談先を周知(学生相談室、担任)
- 2 学資支援者への連絡
 - キャンパス内勧誘問題・相談先の周知
 - 日常・帰省時の様子に気配りを

- 3 キャンパス内の相談態勢
- 被相談者は孤独にならない/しない
 - 専門的知識/二次的外傷性ストレス
- 被相談者間のネットワークの構築
 - 教員、学生係、学生相談のカウンセラー
- 被相談者の知識を増やす
 - 照会先(日本脱カルト協会、靈感商法被害対策弁護士連絡会、カウンセラー等)
- 学内における相談業務のアピール
 - 全学・部局の学生委員会による支援

- 4 宗教情報教育の試み
 - 「信教の自由というリスク」の存在 櫻井義秀『「カルト」を問い直す』中公新書ラクレ2006
 - カルト対策の限界 司法・行政 リスク
 - 宗教のポテンシャル チャンス
 - 宗教と文化、政治の関連
 - 地政学的・文化的要因から世界の動きを考える
 - 宗教的文化・信念にそって生きる人々の方が多い

- 5 大学教育の活性化
 - 自立的思考が学部・大学院で養われているか？
 - 技術的FD論だけでは コンテンツの吟味
 - ゼミの活用/大学院生の指導
 - パワーハラスメント カルト集団の反面教師
 - 大学は高等教育機関である
 - 研究・社会貢献>教育 第一の役割は何か？
 - 教員は研究者か教育者か どちらも
 - 教育(education)には教師が必要 e-learningでも
 - 教育には教育環境の充実が不可欠(施設・人材)